

10/22
五旗

戦争法の内容を反映

30日から日米統合実動演習

防衛省は21日、安保法制―戦争法に基づく内容を含む日米共同統合実動演習「キーン・ソード17」を30日から11月11日までの日程で実施すると発表しました。戦争法の内容を反映した日米共同訓練の実施は3月の同法施行以来、初めて。

防衛省は21日、安保法制―戦争法に基づく内容としては、沖縄本島の東沖で「重要影響事態における捜索救助訓練」を行います。

一方、集団的自衛権を行使する「存立危機事態」を想定した訓練は見送りとなりました。防衛省関係者は米側と調整を続けたものの、「まだ実施できる段階にない」と述べ、非現実的なシナリオの具体化に難航していることを示唆。今回の演習は「今まで周辺事態としてやってきた内容と変わらない」として、世論の反発を避けたい思惑もにじませました。

今回の共同演習は、日本周辺海空域だけでなく、米領グアム周辺の海空域でも初めて実施。

自衛隊からは人員約2万5000人、艦艇約20隻、航空機約260機が、米軍からは約1万1000人が参加。そのほか、英国、豪州、カナダ、韓国の各国軍がオブザーバーとして参加します。